



なぜこうなってしまうのか

アルツハイマー病や認知症の人にみられる傾向

- 薬の副作用
- 服用量を間違える
- 病気によって脳に変化が起きている

幻覚

アルツハイマー病や認知症の人は、存在していないものが聞こえたり、見えたり、においや味がしたり、感じたりすることがあります。時には、家に住んでいない人や亡くなった人など過去に関係があった人、または架空の人物に話しかけたりすることがあります。このような行動は時に家族や友人を心配させます。

あなたにできること

医師の診察を受ける

- 原因解明のために医師を受診する（その際は服用している薬を全て持って行く）
- 幻覚症状があると感じた場合は起きたことすべてを医師に話す
（日々記録をつける。幻覚が起きた日、時間、何があったかなど）

原因を考える

- 考えられる原因を取り除く
 - 鏡に映っているのが自分であることがわからない場合、鏡をしまう
 - 暗闇から何かが出てくると言っていれば、電気をつけるか常夜灯をつける
 - テレビやラジオが混乱を招いたり怖いと感じたりするようであれば消す

安心させる

- 「心配しないで。私はここに一緒にいますからね」と言っただけです
- 言っていることに同意し、言い返さない。その人にとっては現実に起きていることだから。
- 気持ちをそらすために、何か楽しいことをさせる



ヘルプライン
844.HELP.ALZ
alzgla.org